県央都市基盤整備

民間主体で連続講座

【宇都宮】一般社団法人「県央まちづくり協議会」（古池弘隆代表理事）を軸とする県央まちづくり共同企業体は今月から、本町の宇都宮東武ホテルグランデで、まちづくりワークショップを開く。参加者を募っている。

民間主体によるまちづくりと、まちづくりに関わる人材育成などが狙い。「都市基盤整備」「まちづくり活動」の二つのテーマについて議論を深め、グループごとに提案をまとめる。提案は同協議会が年度内につくるグランドデザイン骨子に反映される。

同企業体など4者が国土交通省の本年度の民間まちづくり活動促進・普及啓発事業の助成を受け実施。まちづくりの検討や企業間連携の取り組み、県央地域のグランドデザイン骨子の作成などを行う予定で、ワークショップはその一環。参加希望者は6日までに同協議会まで申し込む。定員は各30人（先着順、全回出席できる人）。参加無料。問同協議会事務局02

まちづくりを考えよう　宇都宮

8・307・7558。

両テーマとも全4回。初回は講師による講義がある。日程は次の通り。

◇都市基盤整備　▽7月25日（午後3～5時）▽8月22日（同）▽9月19日（同）▽10月18日（午後4～6時）

◇まちづくり活動　▽8月9日（午後3～5時）▽9月19日（午後1～3時）▽10月18日（同）▽11月14日（午後3～5時）

大谷石文化の活用

観光拠点へシンポ

5日、共和大

【宇都宮】まちづくりを考える「宇都宮共和大シティライフ学シンポジウム」が5日、大通り1丁目の同大宇都宮シティキャンパスで開かれる。

同大都市経済研究センターが主催。テーマは「地域資源を生かした宇都宮都市圏の観光交流拠点づくり～大谷の『美しい村』づくりに向けて～」で、歴史や芸術、景観など多角的な視点で地域資源の柱となる大谷石文化の活用を考える。

はじめに東京都市大都市生活学部長の川口和英教授と西原町のフランス料理店「オトワレストラン」の音羽和紀オーナーシェフが講演。続いて川口教授と音羽オーナーシェフに加え、市都市魅力創造課の川崎欣司大谷振興室長、ファーマーズ・フォレストの松本謙社長、日本大理工学部の非常勤講師で都市プランナーの冨岡裕一郎さんの計5人によるパネルディスカッションを行う。

コーディネーターは宇都宮共和大シティライフ学部長の山島哲夫教授。

午後1時半～4時半。参加無料。問同センター028・650・6611。